

自然共生への行動変容につながる 情報デザイン



SDGsにおける生物多様性と気候変動について、具体的な行動に繋がる情報を発信します。

なぜ研究が必要なの？



- <現状> 信州の自然環境は気候変動等の危機にさらされています。多くの環境問題は2030年までに対応しないと取り返しがつかなくなると考えられています。
- <課題> 私たちの**価値観と行動を変える**ために**効果的な方法**を見つける必要があります。
- <目的> 人と自然が共生する持続可能な社会の実現に向けて、信州の生活・農林業・観光業・健康等の各分野で実践でき、具体的で受容しやすい情報デザインを検討・展開します。

どうやって研究するの？どんなことがわかったの？

1. 情報提供の方法が保全への協力意識に与える影響をアンケートで調べました。
2. その結果、もともと保全に協力的な人には**短い説明**が、非協力的な人には**動画**による説明が**協力意識を高める**ことが示唆されました。
3. この結果を受け、学習交流用資料の**文字量を削減**する等の見直しを行いました。
4. 県自然観察指導員や自然保護レンジャー等へスライド資料を提供しました。
5. 県の生物多様性サイトへもインプットしました。
(<https://www.shinshu-ikimono.pref.nagano.lg.jp>)

情報提供の量や方法が協力意識(支払意思額)に与える影響と回答者の環境意識(個人属性)の関係(交互作用)



なんで減っているの？

第1の危機
にんげんかつどう 人間活動や かいほう 開発による危機

たとえばトガクシソウは、さいしゅあつ しんりんばっさい 採取圧や森林伐採が げんしょう しゆよういん 減少の主要因と かんがえられています。
(長野県レッドデータブック2002)

グローバル化した生産と消費の拡大により、いま せかいいてき せいぶつたうせい 今では世界的に生物多様性とその恵みが ちよくめん 危機に直面しています。これには、わたし まいにち しょうひせいかつ 私たちの毎日の消費生活も おおき かんけい 大きく関係しています。

マレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林
↓
アブラヤシのプランテーション

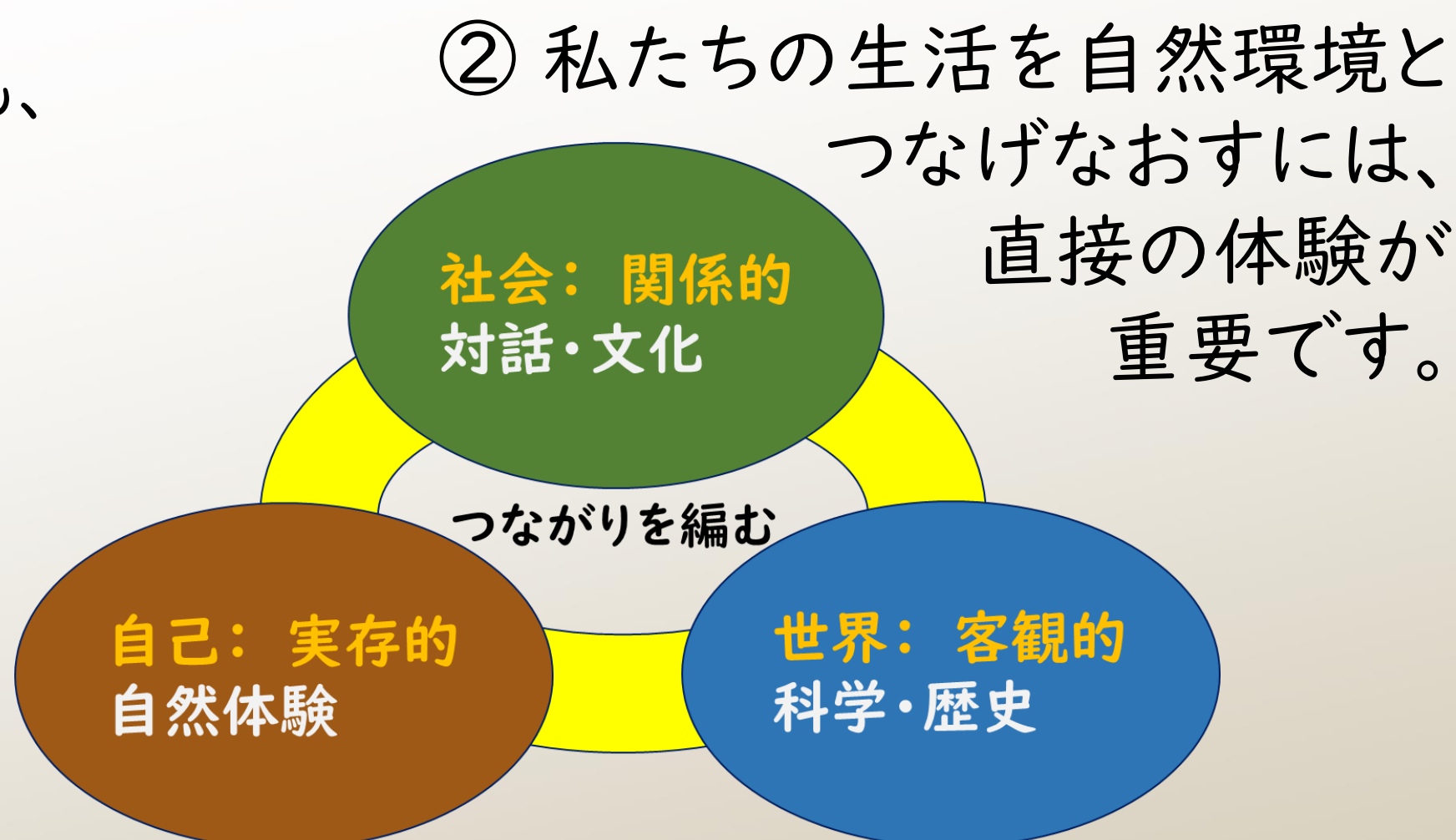
希少な野生動植物の写真をSNSにあげるときは、詳しい場所がわからないようにする。

私たちに なにができる？

←(参考)
<https://www.lifesci.tohoku.ac.jp/date/detail---id-51404.html>

今後の展望

- ① 表層は簡潔でも、興味に応じて**深掘り**していける**階層性**のある**情報デザイン**を検討します。



中学校の探求の授業などで**実践**や**体験**に展開します。